

モビリティの未来に挑戦する自動車部品 専門メーカー

城北機業株式会社が誇るホイールとコンポーネント技術が国内外のモビリティの未来を支える。



「世界中の企業に門戸を開き、輸出することを強く望んでいます」

城北機業株式会社
代表取締役社長
川上 嘉弘

1918年の創業以来、城北機業は日本の二輪車産業と自動車産業から最も信頼される生産パートナーとして歩んできた。同社の生産は、鑄造ホイールやスポークホイールなどの二輪車向けが7割、残りの3割が自動車向けで、燃料電池車（FCV）や電気自動車（EV）向け部品など、将来のモビリティを担う技術の比率が高まってきている。「弊社の二輪車生産台数は、20年前に比べて3倍



自動車部品（ターボ、FCV、EV）の生産

になっていますが、製造コストは価値生産の改善とモノづくり哲学の強みにより、同等かそれ以下の水準にとどまっています」

インダストリアル・エンジニアリングとは、人、知識、情報、設備が統合されたシステムを開発、改善、導入することを指し、複雑なプロセスを最適化するこ



今後注力する航空機用試作部品（インコネル）

とを目的とする専門分野である。「理論値生産で改善を行っている最中です」と語るのは代表取締役社長の川上嘉弘氏だ。

鉄やアルミを加工する機械加工をコア技術としながら、アルミ部品の塗装を第二の生産拠点と

して最終的に組み立てを行う。機械加工を得意とする同社は、FCV最初のプロジェクトサプライヤーに指名された。FCVは、内燃機関ではなく、水素と空気中の酸素を反応させて発電する燃料電池を搭載した車のことを指し、水しか排出しないのでゼロエミッションであるだけでなく、太陽光や風力などの自然エネルギーから水素を製造できるなどエネルギー効率が高いのが特徴だ。

「我々の製品は、FCV車の高圧水素タンクの両端を支える重要な部品であるだけでなく、温度を下げるための重要部品である熱交換器の部品製造を通じて、EVの製造にも携わっています」

「すでにEV車用の部品も製造しており、世界の動きに合わせてEVに舵を切っていく方向です」と川上社長は説明する。

このチャンスを生かすため、日本とインドの自動車メーカーをターゲットにした戦略をとっており、2014年には南インドのチェンナイに工場を設立している。

「インドは巨大なマーケットで、特に二輪車は大企業と二輪車用ホイール



本社

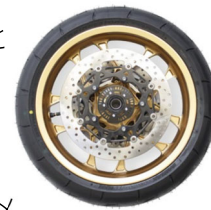
の技術援助契約を結んだばかりです」

そのコア技術で世界有数の大国を攻略するだけでなく、最後のフロンティアである宇宙、それも航空宇宙分野にも目を向け、ソリューションを提供している。

「航空宇宙は、私たちにとって新たなフロンティアです。SOLAEという共同組合があり、静岡県内の14社が加盟しています。先日、東京で開催された航空宇宙関連の展示会に参加してきましたが、航空機製造の発展に貢献できるよう力を合わせて取り組んでいきたいと思っています」



現在生産中のAssyユニット（二輪車用キャストホイール、スポークホイールユニット）



JOHOKU MANUFACTURING PVT. LTD.
Plot No.7, SIPCOT Industrial Park,
Kancheepuram District, Tamilnadu, India